

为 ^{ウェイ} 了 ^ラ 明 ^{ミン} 天 ^{ティエン}

明日のために

子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

第4回 総会を終えて

中国・貴州省の山村の母子保健・医療活動支援に救急車を！ 河北省の山村の中学校に「机と椅子」を！

— 民間の日中友好への願いを背負って/06年度の重点プロジェクト —

■ 2月26日、第4回総会が須藤雅 副代表理事の司会で開会、進行しました。まず、久保田代表理事がトリノ五輪開会式でのオノ・ヨーコさんのメッセージを引用して、「平和な世界をイメージしましょう」と呼びかけ、私たちの活動は単なる貧困脱却支援ではなく、戦争を防ぐためのものでもあります。と挨拶しました。

■ 中江勁理事が議長に選任され、議案の審議に入りました。05年度の事業報告及び収支決算報告が久保田代表理事・井上副代表理事によって行なわれ、堀越監事による05年度事業及び財務に関わる監査報告があり、05年度の本会の事業及び収支決算報告が異議なく承認されました。

■ 05年度に実施されたプロジェクトの中心は、例年通りの基礎的教育支援—農山村の小中学生に対する就学支援奨学金給付—に加えて、寧夏回族自治区固原県における坪楽小学校建設支援と貴州省凱里市における賞郎小学校建設支援でした（「为了明天」第10号参照）。また、河北省易県における中学校の「机と椅子」支援では、300人分の支援が現地の自助努力で350人分の支援になりましたが、現地の調査によりますと、未だ欠乏数は約4,200人分、破損のひどいものは約3,200人分に上るといふ事です。因みに小学校では、欠乏数は約16,360人分（欠乏率46%）、破

損のひどいものは約10,280人分とのことです。もうしばらく現地の補充努力を応援したいものです。

■ 母子保健支援では、貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院母子保健センターに対する入院分娩支援（妊婦一人当たり1,500円の給付）の最終年度に当たりました。同衛生院から、母子保健活動の充実、寄贈医療機器の維持管理、より広大な地域における衛生・医療活動の展開、モデル的役割について報告がありましたが、昨秋の当会訪問団の見聞でもその事実を確認することができました。この視察には中国宋慶齡基金会の張文康副主席（前衛性部長）が同行して下さいました。日本外務省「草の根・人間の安全保障無償」資金援助（05年3月）を受け、母子保健センターを設立した恵水県擺榜郷衛生院スタッフも当会支援の凱里市三棵樹鎮衛生院を見学し、学習したということでした。

■ 05年度の新しい芽は、上海国際幼児教育研究大会の共催者としてその大会に参加（諏訪きぬ団長）したことでした。次世代の育成を巡る研究交流にどういう見通しをもつか、が課題です。当会では、農山村の幼児にも光が届くことを願っています。



■ 総会では引き続き06年度の事業計画と収支予算が提案され、承認されました。

06年度の支援プロジェクトの重点の第一は、やはり就学支援奨学金

給付の継続と小学生への図書寄贈、第二は、母子保健支援—具体的には、貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院の要望に応じて、交通機関の未発達な現地の保健衛生活動を支える救急車購入への支援です。

第三は、河北省易県の中学生に対する「机と椅子」支援です。第四は、今秋11月初旬に予定されている寧夏回族自治区における10年間にわたる女性教師養成支援を踏まえた国際シンポジウム「中国少数民族地域における女性のエンパワーメント—文明間対話への試み—」を成功させる事です。

2005年度 収支計算書 2005年1月1日から2005年12月31日

科 目	金 額		
	内 訳	期中小計	期中合計
収入の部			
I 寄付金収入合計			12,425,740
正・維持会費		1,804,240	
プロジェクト寄付		10,177,200	
幼児教育支援事業	215,000		
母子保健事業	210,000		
奨学金事業	1,171,000		
校舎・設備支援	8,315,200		
図書セット寄贈事業	266,000		
カンパ		444,300	
II その他の収入合計			68,067
中国への理解を深める			
為の活動・講演会	68,000		
預金利息		67	
当期収入合計			12,493,807
前期収支差額繰越金			5,338,902
当期収入合計			17,832,079
支出の部			
I 事業支出の部		11,104,000	
母子保健支援事業	150,000		
奨学金支給事業	1,890,000		
校舎・設備支援事業	8,584,000		
図書セット寄贈事業	480,000		
II その他の支出		127,536	
講演会・会場費他	127,536		
III 運営費の部		1,623,141	
振替口座加入者負担	25,210		
事務室管理料	264,120		
水道光熱費	65,194		
旅費交通費	14,240		
通信費	262,771		
広報活動費	372,102		
会議費	73,249		
国際交流費	86,470		
消耗品費	141,969		
海外送金料	45,000		
コピー機リース料	156,240		
原価償却費	52,526		
雑費	64,050		
当期支出合計			12,854,677
収支差額次期繰越金			4,978,032
当期支出合計			17,832,709

■ 中国は、2010年を目標に、義務教育の無償化を達成する努力をしています。私たちは、その努力を応援し、子どもたちに希望を贈るお手伝いを続けたいと思います。本年度もご支援くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

□ 総会で選任された第3期（2006・2007年度）役員及び新理事会で委嘱された顧問と選任された代表理事・副代表理事は下表の通りです。

特定非営利活動法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会 第3期役員（2006年・2007年度）

〔顧問〕 阿部 猛 小坂哲瑯
清水 澄子

〔監事〕 上村 節子 堀越 信子

〔理事〕 荒川 フジ 井岡 今日子
磯貝 光子 ○井上 睦子
大久保 千芳 川崎 高志
木村 良夫 ◎久保田 博子
小坂主和子 小林 敦子
斉藤 竹子 佐藤 明子
清水 治 ○須藤 雛
諏訪 きぬ 長井 彰
中江 勁 三浦 克
山下 知子

2005年度合計 事業経過報告 2005年1月1日から2005年12月31日

プロジェクト内容	前期繰越	当期募金額	当期事業実施	現在積立額	事業実施累計
幼 児 教 育	334,000	215,000	0	549,000	0
母 子 保 健	454,147	210,000	150,000	514,147	150,000
奨 学 金	1,056,000	811,000	1,110,000	757,000	1,110,000
" (LC)	858,380	360,000	780,000	438,380	780,000
校舎・設備支援	107,000	3,580,000	3,848,000	-161,000	3,748,000
" (LC)	0	4,735,200	4,736,000	-800	4,836,000
図書セット寄贈	139,000	266,000	480,000	-75,000	480,000
	2,948,527	10,177,200	11,104,000	2,021,727	11,104,000

★ 2006年2月26日の第4回総会及び第12回理事会で承認された第3期役員

★ 総会直後の第12回理事会にて、理事の中から代表理事1名、副代表理事2名を選任、顧問3名の委嘱を決定

★ ◎は代表理事、○は副代表理事

★ 2006年3月6日 須藤雛副代表理事、4月10日 小坂主和子理事 急逝

第7回
JCC
中国講座

2005.11.26

新段階の日中関係と東アジア共同体

講師：毛里 和子

早稲田大学政治経済学術院教授

1972年の国交正常化以来30年余が過ぎた日中関係は、1970年代の「戦略的友好期」、1980年代から90年代半ばまでの安定期、1995年から2004年までの構造変容期という3つの段階を経て、2005年春の「反日デモ」を契機に、現在は第四段階、関係を再構築しなければならない新段階に入っている。その間、歴史問題および台湾問題が一貫して日中関係の主要イシューであり続けているが、1972年の合意は、中国がもっぱら対米・対ソ関係から対日関係を戦略的に構築しようとしたこと、「日本国民との友好のため」の戦争賠償請求の放棄など、もっぱら道徳的に対日関係を処理しようとしたこと、他方日本は、米中接近に追随し、戦争問題の国民的解決を含めた中国に対する基本方針を準備することなく、ある意味で受動的に対中国交樹立を決定したこと、などにより、きわめて未成熟なものであった。

90年代半ば、第一に、冷戦の終焉という国際環境の大変化、第二に、中国の経済大国化による日中パワー関係の変容、そして第三に、台湾の自立傾向の顕在化などによって、日中関係はあらたな関係に入り始めた。一般的友好から、



パートナーへ、そしてある種のライバルに日中関係は変わりつつあり、両国のリーダーおよび国民による慎重な再構築が必要になっている。

「戦後は終わった」と考えている日本のリーダーおよび世論、「戦後は始まった」と考えている中国の世論という具合に、両者のパーセプション・ギャップも深まっている。東アジア共同体をめざす共同作業のなかで、多国間の協議を通じて日中二国間の危機を防止し、信頼を醸成し、その上で国民的な歴史的和解を実現する、という道筋が、現在ではもっとも現実的であるように思われる。

第8回 JCC中国講座

中国における日本観・愛国心と日本観の相克

講師：王 敏さん

法政大学国際日本学研究センター教授

朝日新聞国際ネットワーク客員研究員
政策研究大学院大学客員教授
中国社会科学研究所客員教授
人文科学博士（お茶の水大学）

日時：2006年5月20日（土）
14:00～16:00

場所：八王子労政会館 第1会議室
参加費：500円

主催：NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会 TEL & FAX 042-646-4210

「多文化とけあう背景の下での幼児教育」 に参加して

諏訪 きぬ (明星大学教授)

JCCがはじめての幼児教育訪中団を上海に派遣したのは昨年3月でした。その際、上海宋慶齡基金会の沈海平副秘書長からのお誘いを受け、10月に開催される上海国際幼児教育研究会にも、開催構成団体の一員として幼児教育訪中団を送ることになりました。実際には明星大学保育者・教師キャリア研究会のメンバーを中心に10名(大学関係者は明星大学から諏訪、岡本富郎、斉藤政子、中坪史典、董丹犁、横浜市立大学の大賀明子の6名、保育関係者は品川区立二葉すこやか園の塩谷香保育長、大沢洋美、松崎由美、狭山市立水野保育所長 佐藤洋子の4名)で団を組み、上海国際幼児教育研究会に参加しました。

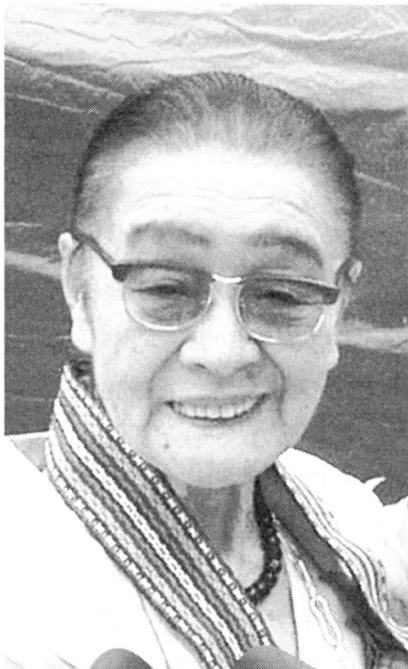
日程は10月22日～25日、開催場所は上海駅近くの東亜飯店、主催は中国福利会、実施機関は宋慶齡児童発展センター。開催テーマは「多文化とけあう背景の下での幼児教育」、中国(台湾・香港を含む)・日本・カナダ等の研究者や保育者が「国際的視野で検討しあい、交流しあう」という開催趣旨の下に、23日には小林登氏の研究報告を皮切りに、台湾、日本、カナダ、上海等々からの研究発表が行われました。私たちも「日本における乳幼児の発達と保育・教育の課題」を共通テーマに、「乳児期における父親とのか



かわり」(大賀)、「長時間・長期間保育児の発達と保育の質」(諏訪)、「幼児教育とコンピュータ」(中坪)と題して、各自の研究を報告しました。24日は幼稚園見学(上海市立南陽幼稚園・中国福利会託児所・幼稚園)、25日午前中は新設なった宋慶齡幼稚園を見学、午後は研究会(実践報告)が行われ、散会となりました。

「多文化とけあう」「国際的視野での検討・交流」というテーマや呼びかけに魅せられての参加でしたが、参加してみたの感想はやや期待はずれ。その理由を挙げてみると、**1.** 主催側(中国福利会・宋慶齡児童発展センター)のリーダーシップが不明確であったこと(課題提起もなく、受付・資料配布・会費徴収の場もはっきりしないなど)。**2.** 22日の晩餐において、参加者の紹介や交流が一切なされなかったこと。**3.** 研究会に多様なテーマ設定はあるものの、各自バラバラの研究報告に終わり、国際的視野での討議は行われなかったこと。**4.** 幼稚園見学も施設見学だけで、実践をめぐる討議の場は組織されなかったこと。**5.** 内容や通訳サービスに比して参加費が高額、等々です。また「構成団体に」とJCCにお誘いがあったにもかかわらず、今年6月の香港での研究会については何の知らせもないなど、組織的にも問題があるようで、国際交流の難しさを感じています。





須藤 雛さんの急逝を悼む

第4回総会で元気に司会を勤めてくださった副代表理事の須藤 雛さんがその8日後の3月6日未明に心不全で永眠されました。享年79歳。

わが国保育界での活躍暦50有余年、社会福祉法人戸越会花さき保育園の現役の園長でした。保育を、未来を託す人間形成の最初の一大ステップだと位置づけ、いつも開拓的に考えておられました。

「子どもは未来につづく宝物、わが子への愛を世界の子どもにも」は、花さき保育園の封筒に印刷されていますが、これは須藤さんの日常のアピールでありました。彼女は実践を通してこのことを示して来られました。

昨年、須藤さんは、350万円を拠出して、中国・貴州省凱里市三棵樹鎮の賞郎小学校の新築を支援し、教室に新しい教卓と児童の「机と椅子」420セットを備え、立派な書棚と10万円相当の図書を寄贈し、全校児童に生涯活用できる新華辞典をプレゼントしました。「これで、2年前に設立支援した母子保健センターで生まれた子どもが小学校を卒業するまでの環境が整った」と、須藤さんは満足気でした。賞郎小学校6年生の児童は、「須藤おばあさま」とよびかけ、「窓にガラスが入り、隙間風にさらされる事がなくなったので、風邪引きで欠席する友達が少なくなり、元気に勉強することができるようになりました…」と、心からの感謝の気持ちを書き綴ってきました。

貴州省凱里市は、須藤さんのこれらの貢献に対し「名誉市民」の称号を贈りました。賞郎小学校玄関の壁には「須藤 雛女士への謝意と敬意」が刻まれています。

須藤さんは、JCC発足の時から、物心両面で大きな役割を担って下さいました。お心の行き届いた、頼りになるお力添えをいただきました。

敬愛と感謝をもって、ご冥福をお祈り申し上げます。

(代表理事 久保田博子)



弔電 追悼須藤 雛様

NPO法人宋慶齡基金会

日中共同プロジェクト委員会 殿

「悲報に接し、驚き、悲しみに耐えません。須藤雛女史は、生前、中日両国民衆の友好と両国民間交流を推進するために大いに貢献されました。ご逝去は、日本民衆の損失だけでなく、中国民衆の大きな損失でもあります。このような中日友好事業に熱心な友人を失い、心よりお悔み申し上げます。この書面をもって、須藤雛女史のご逝去を悼み、また、ご遺族の方々のお悲しみはいかばかりかとお察し申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。」

2006年3月7日 中国宋慶齡基金会

NPO法人宋慶齡基金会

日中共同プロジェクト委員会 殿

「貴会副代表理事 須藤雛女士急逝の訃報を受け、驚き、深く心を痛めております。本会全員が極めて悲痛な思いで、心の底から哀悼を捧げます。

須藤雛女士は、生前、中国の女性と子どもたちに非常な関心を寄せ、そのために傑出した貢献をされました。我々は、全員深い感銘を受け、尊敬申し上げております。須藤女士を永遠に忘れることなく、手本としたいと思います。

上海宋慶齡基金会は、故須藤雛女士に花かごを捧げて敬愛と追悼を表示し、ご冥福をお祈り申し上げます。」

2006年3月7日

上海宋慶齡基金会 副主席 許德馨
副主席 艾柏英

上海宋慶齡基金会一同

- 中国宋慶齡基金会 張文康副主席・母嬰平安工作組組長（前衛生部長）
- 貴州省凱里市三棵樹鎮人民政府、凱里市三棵樹鎮衛生院、賞郎小学校、
- 政治協商會議貴州省凱里市委員会等から心のこもった弔電を頂戴しました。

敬愛する須藤 雛おばあさま

貴州省凱里市賞郎小学校六年生 蒙 永花

こんにちは、おばあさまに心から尊敬と感謝の気持ちを表します。

2005年10月に私たちの学校の全児童は、あなたが援助して建設してくださった校舎に引越し、新たな気持で勉強を始めました。ピカピカの新しい椅子に座って、広くて明るい教室で勉強していると、私たちの心も穏やかになり、明るくなりました。特に今年の冬は、教室の窓とドアがしっかり閉まり、40余名のクラスメイトが全員が全然寒さを感じずに、とても暖かく勉強する事ができました。風邪を引いたり、熱を出したりする児童が少なくなりました。

以前の教室は、冬になると、ゆれ落ちそうな窓とドアに薄いプラスチックを張るだけで、寒い風が天井や壁の隙間から入ってきました。皆が寒くて、足が凍って、我慢できず、足を地面に叩いて、授業中にとんと音が響いていました。友だちの耳には先生の話が聞こえないし、手をポケットから出してノートを書く気にもなりません。毎年冬になると、友だちが風邪を引いて、熱が出て、学校を休む生徒がクラスの中で十分の一ぐらいになりました。

今年の冬は、暖かい教室の中で、風邪を引いたり、熱を出したりする生徒は少なくなりました。一番寒い時期を過ぎ、たまたま病気で休む生徒もいましたが、みんな暖かい教室で一生涯懸命授業を聞いたり、宿題をしたり、静かに寄贈していただいた図書を読んだりして過ごしましたので、どの生徒も成績がよくなりました。私たちはわかっています…これは全部須藤おばあさまのおかげであることを…私たち賞郎村の人々に大きな支持と関心と



相次ぐ悲報

理事 小坂主和子さん 4月10日 ご逝去

—— 心からご冥福をお祈り申し上げます ——

4月11日に通夜、12日に葬儀・告別式が四谷の聖イグナチオ教会で行なわれ、各界多数の方々が参列し、哀悼の祈りを捧げました。

故小坂主和子さんは、中国近代化の先駆者孫文の盟友として中国革命に莫大な財を投じ、また孫文・宋慶齡の結婚を親身にお世話した梅屋庄吉・トク夫妻の孫娘として、他方同じく孫文とゆかり深い日比谷松本樓の常務取締役として日本と中国の民間交流に大いに貢献されました。また日本における宋慶齡基金会の活動に20年余役員として参加され、中国宋慶齡基金会の理事にも任じ、敬愛の的でした。



上海宋慶齡基金会訪日団歓迎宴
(2004年9月 日比谷 松本樓)

愛をくださいましたことによるのです。私と賞郎村の村民は、あなたに心から感謝し、あなたの恩を永遠に忘れません。クラスメイトと一緒によく勉強し、私たちに愛を下さったことに報恩の思いでいっぱいです。

ここまで書くと、おばあさまが昨年9月5日にわが学校を訪問されたときのことを思い出します。そのとき、おばあさまは、ゆっくり車から降りて歩きながら私たちに手を振って微笑んで下さいました。私は須藤先生が言っておられた言葉が分かりませんでした。行動から見るととても穏やかで親しみやすく、遠くから来た自分のおばあさんのようでした。その日、あなたは私たちにたくさんの飴や学用品をくださいました。今、私が手紙を書くペンはそのときいただいたものです。あの日、とても楽しかったです。皆さんが帰った後でも興奮と感激がしばらく続きました。時が過ぎで

も、今にもあなたの笑顔が私たちの頭の中に頻繁に浮かんできます。

“日本”という国は、田舎の私たちにはよく分からなくて、同じ地球と分かっている、遠くてあまり知らない国です。先日、先生が“日本はどこにありますか？”と地図を開いて、日本という国を紹介してくれて、よく分かりました。日本という国は、私たちの一衣帯水の隣国で、経済と科学技術が非常に発達した国家ですね。先生の説明を聞いて、私とクラスメイトは、あなたの国をとて尊敬し羨ましいと思いました。これから、私は一生懸命勉強して、皆さんのご期待に背くことなく、祖国に貢献する人材に成長し、中国と日本に役立つ人材へと成長していきます。

最後に、日本のおばあさまと皆様に心から感謝を申し上げます。
(井岡今日子 訳)



2005年

- 11月13日 第30回事務局会議：06年度事業計画について
— 貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院より報告と感謝状及び支援要請
- 11月22日 中国宋慶齡基金会に送金：157万円
① 河北省易県の小学校5校に図書セット寄贈40万円
② 易県の小学生300名に奨学金45万円
③ 易県の女子中学生50名に奨学金15万円
④ 吉林省第7中学生50名に奨学金15万円
⑤ 寧夏回族自治区西吉和平中学女子学生60名に奨学金42万円
河北省易県教育委員会より「机と椅子」配備報告と感謝状
- 11月26日 第7回JCC中国講座：毛里和子氏「東アジア共同体へのアプローチ—地域は作られる」
- 11月29日 駐日中国大使館友好交流部孫美嬌参事官及び于淑媛参事官兼総領事を表敬訪問
- 12月16日 上海宋慶齡基金会よりEMS：賞郎小学校建設支援・母子保健支援関係領収証
— 国際交流基金に申請：06年11月国際シンポジウム関係
- 12月18日 第10回理事会：06年度事業計画・収支予算について
— JCC忘年懇親会
- 12月21日 木村理事、上海宋慶齡基金会を訪問、艾柏英副主席と会談：共同プロジェクトの事後処理及び次年度計画について
- 12月24日 上海宋慶齡基金会汪道涵主席逝去
— 06年11月 国際シンポジウムに対する早稲田大学の助成決定

2006年

- 1月 4日 中国宋慶齡基金会よりメール：支援金に対する領収証について
- 1月 7日 上海宋慶齡基金会よりEMS：
① 賞郎小学校完成写真及び感謝状
② 貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院より報告書
③ 凱里市教育局より奨学金支援について
- 1月11日 年度末財務整理：収支決算ほか
— 上海宋慶齡基金会よりFAX：凱里市三棵樹鎮衛生院よりの救急車についての要望書及

び上海宋慶齡基金会・中国福利会の救急車需要についての積極的見解

- 1月15日 第33回事務局会議：第4回総会準備
- 1月18日 05年度事業及び財務に関わる監査
- 2月 8日 第4回総会議案書発送
- 2月15日 05年度事業及び財務に関わる監査(第2回)
— 第4回総会：05年度事業・財務報告、監査報告、06年度事業計画・収支予算・第3期役員を選任
— 第12回理事会：正副代表理事選任、顧問の委嘱
- 3月 6日 須藤難 副代表理事 逝去
- 3月 9日 故須藤難氏 告別式
- 3月12日 第34回事務局会議：11月の国際シンポジウムについて
- 3月13日 木村理事、上海宋慶齡基金会艾柏英副主席らと協議：貴州省における救急車配備支援について/17日再協議
— 東京都に年度末報告及び東京法務局に役員変更届等
- 4月10日 小坂主和子理事逝去
- 4月12日 故小坂主和子氏告別式
- 4月15日 第35回事務局会議：06年度プロジェクト実施計画等
- 4月24日 八王子消防署に救急車を見学
- 4月27日 中国福利会訪日団(艾団長)と会談
- 4月30日 「為了明天」No.11 発行



編集
後記

今年、早々と開いた桜の花は雨にも負けず、長い間咲き溢れて美しかった。須藤難さんにお見せしたかった、と急逝を惜しむ間もなく小坂主和子さんの悲報に接し、一同心が沈んだが、悲嘆を超えて、お二人の素志を継ぎ、「日中の平和・友好の為に微力を!!」と気をとりに直している。ご支援・ご厚情をお寄せ下さる皆様のご健康を心からお祈りし乍ら、「為了明天」No.11を編集した。(三浦克子)

「為了明天」No.11

2006年4月30日発行

題字：周 肖

編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日共同プロジェクト委員会
久保田博子

〒192-0904 東京都八王子市安町1-43-6-206

TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店(普通)4731623